

品川開発プロジェクト (第I期)

TAKANAWA GATEWAY CITY

きょうまちびらき



(写真提供)大林組

100年先の 心豊かなくらしのための実験場

THE LINKPILLAR 1 NORTH/SOUTH
全体デザイン構想：ピカード・チルトン、
隈研吾建築都市設計事務所
設計：品川開発プロジェクト(第I期)設計共同企業体
＝株式会社JR東日本建築設計
JR東日本コンサルタンツ株式会社
株式会社日本設計
株式会社日建設計
施工：株式会社大林組

JR東日本が東京都港区の品川車両基地跡地で手掛ける高輪ゲートウェイ駅に直轄した新たな街「TAKANAWA GATEWAY CITY」が27日、まちびらきとなる。都心最大級の新たな街のまちびらきに合わせて高輪ゲートウェイ駅が全面開業し、駅前で建設を進めてきた地上30階のツインタワー「THE LINKPILLAR 1 NORTH/SOUTH」も開業する。街全体を「100年先の心豊かなくらしのための実験場」と位置付け、街のすべてをフィールドに、より良い未来のための社会課題に取り組み「GATEWAY」となる街が誕生する。

品川開発プロジェクト(第I期)として整備が進むTAKANAWA GATEWAY CITYは、羽田空港から約15分、関西方面の玄関口である品川駅から山手線・京浜東北線で1駅という抜群のアクセス性を有する。国内外からさまざまな人たちが訪れ、新しいビジネス・文化が生まれる「国際交流拠点・品川」の実現に向けて、さらなる挑戦を続けていく。

まちびらき以降も工事が進むTHE LINKPILLAR 2、複合文化施設、高層賃貸住宅は2026年春に開業予定。これにより、街全体がランドオープンを迎える。国際的なビジネス・文化・居住エリアとして発展していくことになる。

◆ 大林組

MAKE BEYOND

つくるを拓く



つくるを、
つくり変える。

NORTH/SOUTH 完成

150年前のイノベーションを未来につなぐ

JR東日本が品川車両基地跡地で開発を手掛ける新たな街「TAKANAWA GATEWAY CITY」が本日、まちびらきとなります。高輪ゲートウェイ駅に直結する都心最大級の新たな街の開発において当社は、約150年前に日本で初めて海の上を鉄道が走ったというイノベーションのDNAを未来へつなげ、「100年先の心豊かなくらし」に挑戦していきます。地域や日本各地、世界への玄関口「Global Gateway」、そして未来への「ゲートウェイ」となり、国内外の人・自然・文化・テクノロジーをつなぎ、より良い未来を創造していきます。

まちびらきのタイミングで開業となるTHE LINKPILLAR 1 NORTH/SOUTHは、高輪ゲートウェイ駅正面に位置する国際交流拠点の象徴となるツインタワーです。「あらゆるものをつなぎ、共創し続ける未来に向けて成長する」という意味の「Link」と、「100年先の心豊かなくらしのための実験場として、その支柱となり伸び続ける」という意味を込めた「Pillar」を掛け合わせて命名しました。

施設内には、国際会議の誘致が可能な駅直結・都心最大級の大規

模コンベンション・カンファレンス施設「TAKANAWA GATEWAY Convention Center」や、インタラクティブな観光情報を発信する「TAKANAWA GATEWAY Travel Service Center」が開業し、ビジネス・観光の新たな拠点となります。

国際的な企業の本社などが入居するハイグレードオフィスは、駅直結の好立地に1フロア当たりの床面積が約1,500坪となり、環境性能評価「LEED」BD+Cの予備認証GOLDを取得した日本最大級のグリーンビルディングとして、オフィスワーカーや地球環境にもストレスフリーなオフィス空間を提供します。約2万人のオフィスワーカーが集い、共創による新たなイノベーションやソリューションを生み出す、活気あふれる街となります。また、ビジネス創造拠点「TAKANAWA GATEWAY Link Scholars' Hub (略称LiSH)」は、ディープテック分野など100社以上のスタートアップをサポートするアカデミアやファイナンス支援制度をそろえた広域スタートアップエコシステムの拠点となります。

このほか、今秋には首都圏初進出のラグジュアリーホテル「JW Marriott・ホテル東京」、約200ショップで構成する「ニュー

ウマン高輪」(3月27日一部先行開業)が開業します。

THE LINKPILLAR 1 NORTH/SOUTHに続き、2026年春にはTHE LINKPILLAR 2、Mon Takanawa: The Museum of Narratives、TAKANAWA GATEWAY CITY RESIDENCEが開業し、グランドオープンとなります。街の完成後に高輪ゲートウェイ駅は、1日平均乗車人数約13万人に増加すると見込まれ、TAKANAWA GATEWAY CITYは国際的なビジネス・文化・居住エリアとしてさらなる発展を遂げていきます。

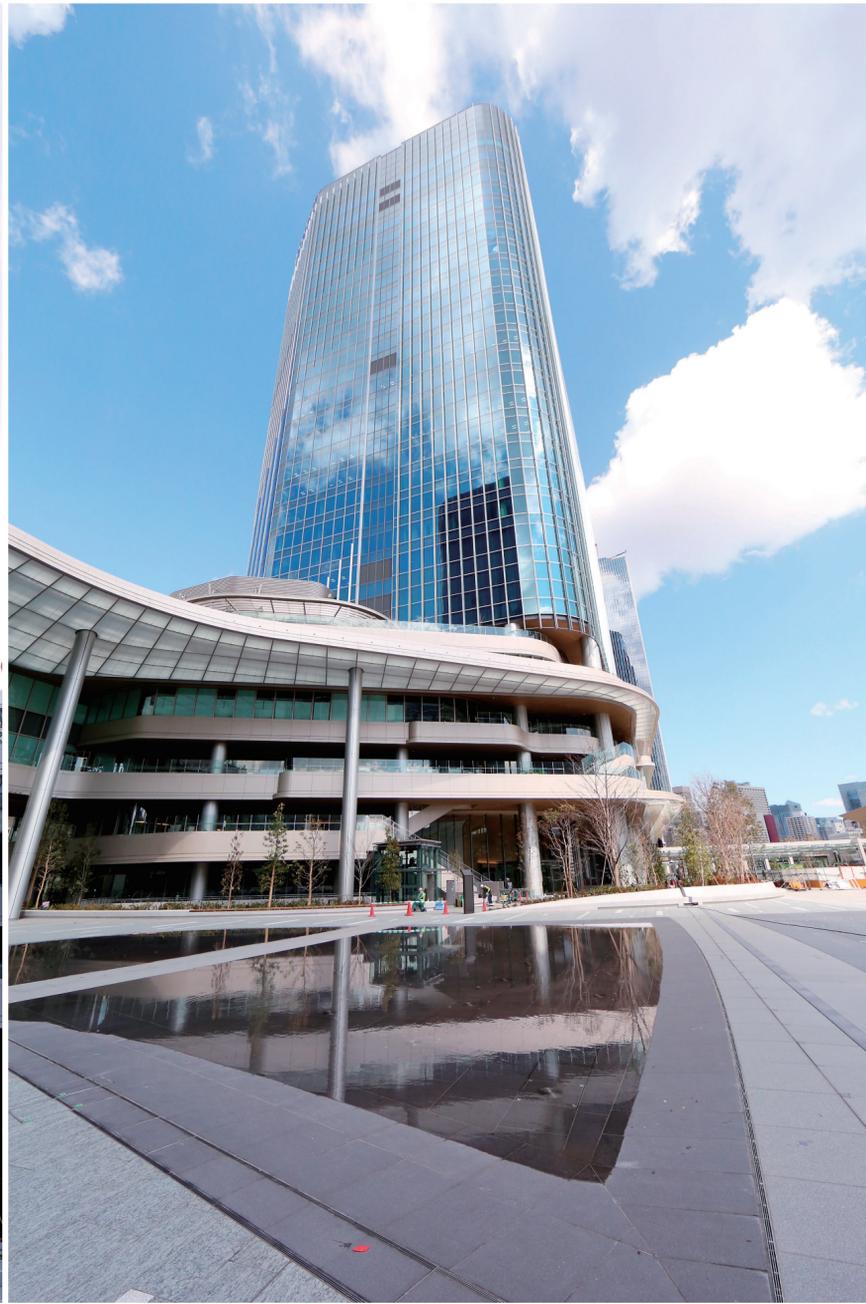
さらに、羽田空港の国際化やリニア中央新幹線の整備による交通基盤の進化を見据え、これからの日本の成長をけん引する「国際交流拠点・品川」を中核として、浜松町駅から大井町駅間の東京南エリアを「広域品川圏」と位置づけ、各駅において、事業パートナーや地域の皆さまと連携し、駅を中心とするまちづくりを推進してまいります。

東日本旅客鉄道株式会社
マーケティング本部まちづくり部門品川ユニット
ユニットリーダー 河合秀智

駅に直結する都心最大級の新たな街



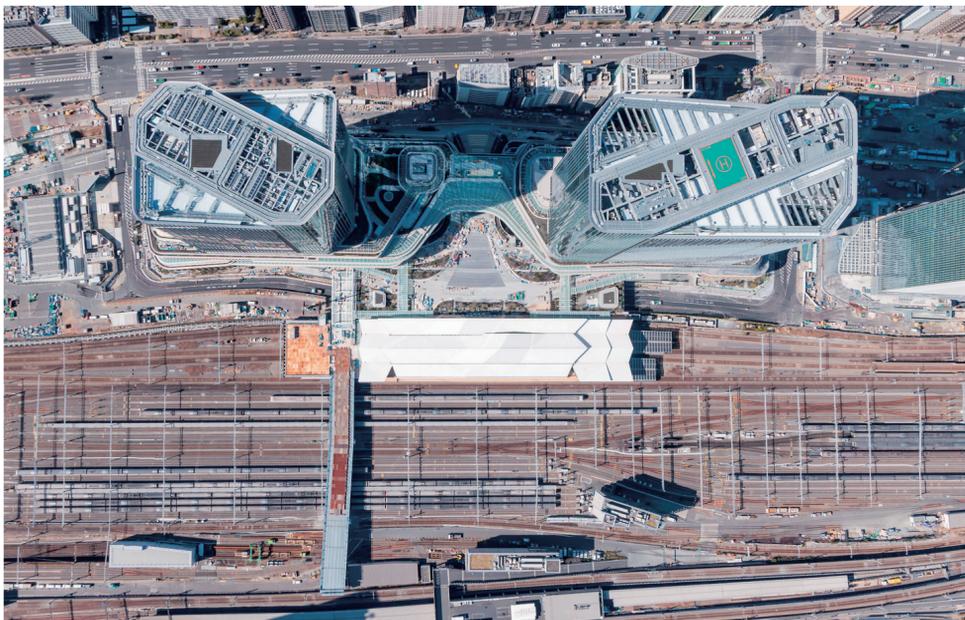
SOUTH



NORTH



駅に直結するツインタワー (JR東日本提供)



上空から見たTHE LINKPILLAR 1 (大林組提供)

TAKANAWA GATEWAY CITY

THE LINKPILLAR 1

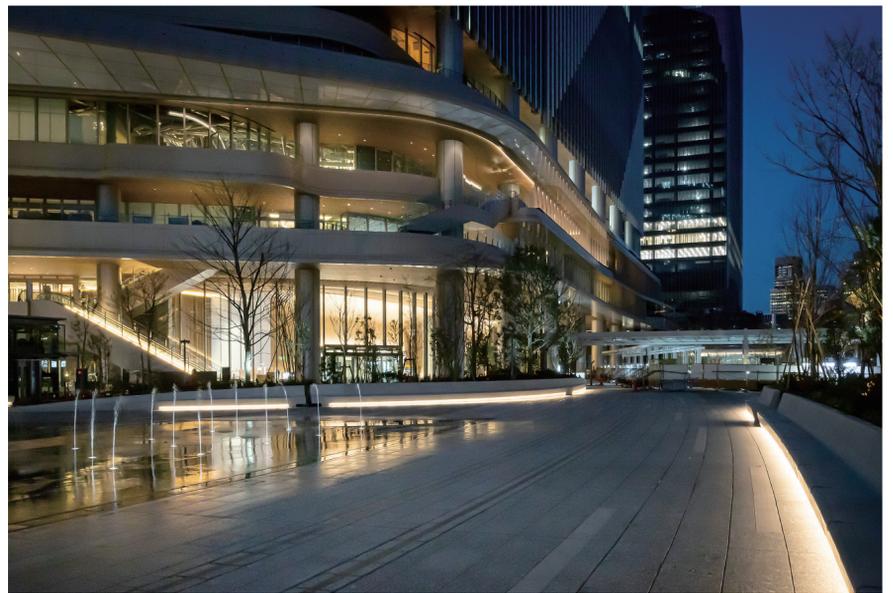
日本の成長をリードする国際交流拠点



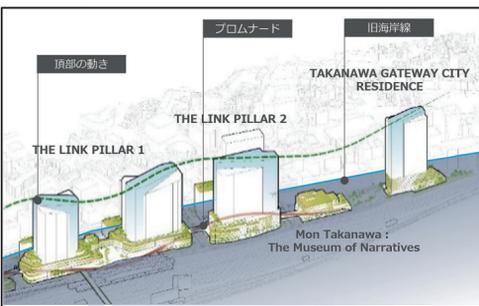
NORTH SOUTHをつなぐ大屋根 写真提供：品川開発プロジェクト(第I期)設計共同企業体



SOUTH 2階エントランス



流線型のフォルムが美しいGateway Parkの夜景



コンセプトダイアグラム

設計コンセプト

潮の満ち引きをデザイン

このエリアは歴史的には江戸の玄関口であり、明治期には日本と西洋の鉄道技術の融合による高輪築堤が生まれた場所です。計画地は国道15号線の東側に位置しており、THE LINKPILLAR 1は高輪ゲートウェイ駅とともにエキマチ一体のまちづくりの中心街区となっています。

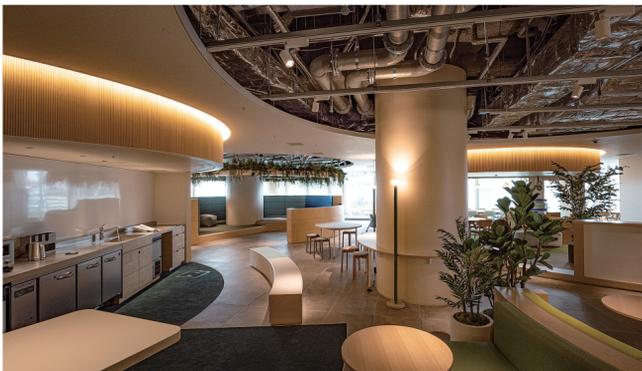
デザインコンセプトは、この地がかつての海岸線であったことから、「潮の満ち引きのように、引いては寄せる波の姿を、このエリアが国際交流拠点として多様な人々が集まり、躍動的に変化し続けるまちの姿」に見立て「潮の満ち引き=Flow(流れ)」としています。

THE LINKPILLAR 1は広場を中心としたツインタワーによる特徴的

なスカイライン、ファサードを包み込むダイアゴナルライン、重層的な流線形のフォルムで構成された低層部により、建物全体で動きや躍動感のあるFlow(流れ)を表しています。

ゲートウェイパークは駅とシームレスにつながる広場を実現しており、エキとマチ一体でにぎわいを生む象徴的なパブリックレムを創出しています。この広場を起点にプロムナードは多様な用途や広場空間と有機的な繋がりを造り出し、将来的には他街区や品川駅とも接続され、街全体として相乗的な効果が生み出されることが期待されます。

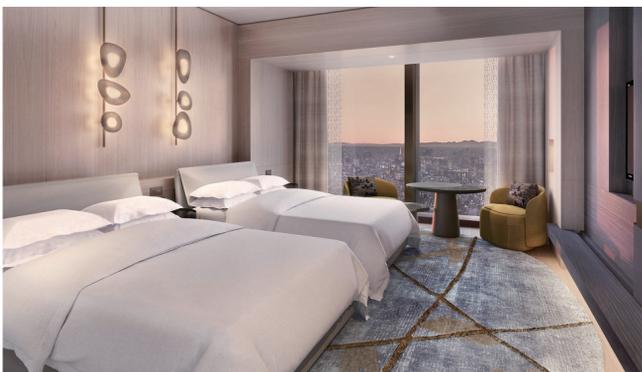
品川開発プロジェクト(第I期)設計共同企業体
株式会社JR東日本建築設計 棟居克之



NORTH 7階 ビジネス創造施設「LiSH」



SOUTH 6階 カンファレンスロビー



(左から) 今秋に開業する「JW Marriott・ホテル東京」、ニューマン高輪イメージ(今秋に全面開業)、新観光拠点「TAKANAWA GATEWAY Travel Service Center」 パース提供：JR東日本

多様な交流を生む街の玄関口



上空から見た施設群 (大林組提供)



単独施工で最大規模

株式会社大林組
品川駅北周辺地区総合工事事務所・
品川駅北開発4街区工事事務所

執行役員総括所長 近藤 宏氏

JR東日本が進める品川開発プロジェクト(第1期)のうち、TAKANAWA GATEWAY CITYの玄関口として、高輪ゲートウェイ駅に直結する4街区の施工を当社単独で担当しました。今回完成した「THE LINK PILLAR」AR1 NORTH/SOUTHの施工は、当社として国内外問わず最大規模の建築工事となり、総括所長の下に7人の所長を配置し、総勢約350人の体制で臨みました。

南北2棟の建物は地下3階地上30階建てとなり、総延床面積約46万平方メートルとなります。現場には約4300人の作業員が従事しましたが、一人一人が工事の趣旨を理解し、責任を持って発注者からの要求に応えられるよう、一丸となって取り組みました。

現場一丸で高品質な建物に



慎重に構造体の精度管理

株式会社大林組
品川駅北開発4街区工事事務所

所長(地上部分) 末吉 志郎氏

建物規模が大きく、当社、精度管理を慎重に行うの職員も総勢約3500人と、必要がありました。いったん現場の運営が最も重視される現場で仮組みして施工した際は、コミュニケーションを徹底し、現場で確認し、部材を現場に搬入して本番の作業に臨むよう、事前に万全を期すべく、報告・連絡・相談を徹底し、取り組みました。



高輪ゲートウェイ駅に直結

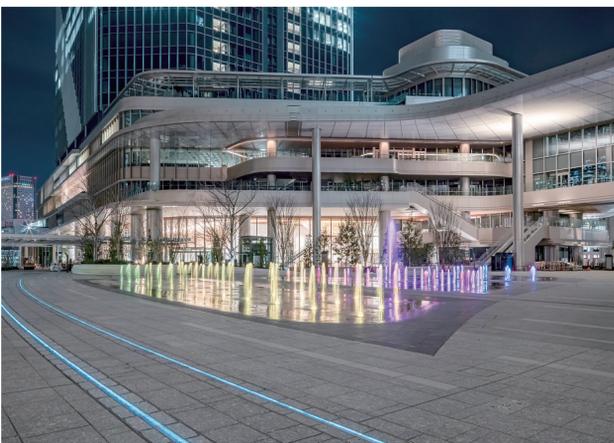


逆打ち工法の経験を生かして

株式会社大林組
品川駅北開発4街区工事事務所

所長(地下部分) 大塚 貞治氏

大規模超高層ツインタワーで、極的に行いました。事例を紹介する大塚氏は、逆打ち工法は通常、山現場に地下掘削として4年半程度留るのを防止する目的で仮設工事として、工期短縮と安全性確保のために、本体躯体を利用して、その設置と撤去は工程上のネックとなります。そこで本設から「逆打ち工法」で当初から躯体の外周壁を補強することにより、山留の変位を抑えることができました。社内でも逆打ちの経験が豊富で、今回私が配属された山留工事に始まり、低層棟内装や外構工事も担当し、振り返れば気が休まることのない日々でした。現場では、振返りや方々との出会いがありました。



Gateway Park (JR東日本提供)

現場で活用した施工技術

- ロボット耐火被覆
走行装置、昇降装置、横行装置産業用ロボットアームであらかじめ登録した作業データに従って吹付作業を行う。
- 資機材の自動搬送システム
ウェブ上に入力した資機材の搬送スケジュールやタブレットから無人搬送車への指示に基づき、搬入階から目的地までの搬送を完全に自動で行う。
- ディープウェル自動制御システム
ディープウェルの揚水量・水位管理やリチャージウェルの能力に応じた注水量を流量計・電磁バルブ等を用いて、集中的にコントロールする。
- スカイジャスター(吊荷方向制御装置)による資機材揚重
ジャイロモーメントでクレーンの吊荷の回転を制御する装置を鉄骨建方や外装材取り付けに採用。強風時でも吊荷が振れることなく、安全に揚重作業が可能となる。



ツインタワー見上げ

■工事名称	品川開発プロジェクト(第1期) 4街区
■施工場所	東京都港区港南2-10-247の一部他
■発注者	東日本旅客鉄道株式会社マーケティング本部
■全体デザイン構想	ピカード・チルトン、隈研吾建築都市設計事務所
■設計・監理者	品川開発プロジェクト(第1期) 設計共同企業体 株式会社JR東日本建築設計 株式会社JR東日本コンサルタンツ株式会社 株式会社日本設計 株式会社日建設計 株式会社大林組
■施工者	株式会社大林組
■敷地面積	38,281.26㎡
■延床面積	30,885.50㎡
■階層	460,177.37㎡
■構造	地下3階地上30階塔屋1階
■装仕上	造: S造、SRC造、RC造
■根柢	アルミカーテンウォール、石貼り、ALC版
■主要用途	アスファルト断熱防水、押えコン、屋上緑化 事務所、物販、ホテル、集会所、飲食店、保育所、 巡査派出所、自動車庫、自転車庫、その他